

頑張る 農業法人

大規模な圃場(ほじょ) きた。

う)整備が進む中、高齢化で後継者が減少する京丹後市大宮町森本地区で、地域農業の担い手として2010年6月に設立した農業生産法人「京丹後森本アグリ株式会社」。

主食用米、飼料用米の生産を中心に経営し、水稲の受託作業も徐々に増やす他、若手の担い手育成にも取り組み、次世代への継承を目指す。

同地区は同町中部東側に位置し、丘陵に囲まれた農村地帯。約60畝の耕地が広がるが、圃場の区画や農道が狭く耕作地点に在していた。高齢化や後継者不足が進んできたことから、04年に森本集落営農組合を結成し、水稲の受託作業を行なっ

さらに農地利用の効率化や省力化を図るため、行政に圃場整備を要請し、府の事業を活用して10年度から約40畝の圃場整備を開始した。

営農組合代表だった坂田正弘さん(67)ら4人が「先人が頑張つて開拓した農地を守り後世に残そう」と法人設立への発起人となり、「責任所在がはっきりし迅速に物事が決められる」と株式会社での法人設立を決断した。

利益優先ではなく、地域で農地を守りたいとして話し合いを重ね、農家に出資を求めたところ9割の59人が応じ、地区ぐるみでの設立となった。

代表取締役は坂田さん、取締役の井浪善之さん、取締役の芦田喜光さん、矢野

京丹後市 大宮町 京丹後森本アグリ(株)



明日を見据える(右から)坂田さん、井浪さん、芦田さん、矢野さんの役員

担い手育成し次代に

直幸さんの3人と、監査役の河嶋重春さんで運営を行う。従業員はなく、年間延べ126人を臨時に雇用する。

圃場整備は完了間近となり、1枚が約1畝と広い田が11区画もあり、近隣では最大級の広さ。

今後の農作業の効率化が期待される。主食用米13・6畝、飼料用米4・5畝、小菊30坪、ハウスで水稻苗3500枚を育

地域農業保全、6次化も視野

苗し、2畝の水稲作業を受託する。

主食用米の全ての水田で冬季たん水を行い、飼料用米は鉄コーティングで直播(ちよくは)し耕畜連携するなど環境に優しい農業を行う。

「米はJAに出荷する他、自給米として地元配当もしている。圃場整備直後の圃場は収穫が少なかったが、今年度は安定化し経営も黒字となった」と坂田さんは話す。

次世代に継ぐ人材育成として、今年から農機具講習会などを開く予定で、野菜やもち米栽培、女性加工グループの結成、直売なども検討する。

坂田さんは「法人の柱となる人材を育成し、会社と地域農業の持続につなげたい。近隣集落と6次産業化も視野に経営を拡張していきたい」と抱負を話す。

▽法人所在地 京丹後市大宮町森本1347。電話 0772(64)4167。